

1. 報告書提出日

2024年9月15日第1回報告

2. 基本情報

氏名：小林萌子

派遣クラブ・カウンセラー：福山南ロータリークラブ・後藤昇三さま

受入クラブ・カウンセラー：Bristol Breakfast Rotary Club・Ms. Mary Whittington

教育機関 専攻分野：Social Policy

3. 学業面での成果

9月7日にブリストルに到着。9日からいよいよ大学の新学期が始まりました。私は博士課程に在籍するので、授業を受講するというよりも研究が主になります。

最初の1週間は、オリエンテーションの行事がもりだくさんで、研究の心得や大学や図書館の使い方などをみっちりレクチャーされます。

その中でも特に新鮮だったのが、研究者を精神的にサポートする体制が整っていることです。「実験室でグループで行う科学系の研究と違って、社会科学の研究は一人でやることが多くて孤独に感じるのがよくあるんだから、とにかく大学に来なさい。博士課程の学生に向けたイベントは積極的に参加して、仲間を作りなさい。何かあったら指導教官や大学のスタッフとにかく連絡しなさい。」ということを繰り返し強調されました。実際、大学には、博士課程の学生が集って研究仲間をつくれるようなイベントがさまざまにあります。これは、日本の大学院にしばらく在籍していた私にとって、日本の大学と違う、とても新鮮なことで、このサポート体制のおかげで最初から大きな安心感を覚えることができました。

また、指導教官とはかれこれ1年以上にわたって、オンラインミーティングを重ねて研究の指導を受けていたのですが、ついに、パソコンの画面越しではなく、実際に会うことができました。指導教官2人とも本当に協力的な方で、時間いっぱい今後の計画方針などさまざまなアドバイスをくださり、これからブリストルで進めていく研究生活がますます楽しみになりました。

これからいよいよ本格的にブリストルで研究を進めていくことになりますが、オリエンテーションでも強調されたように、仲間を大切にしながら、そして、自分の研究を楽しみながら研究生活を送りたいと思います！

4. 受入地区でのロータリーとの関わり、奉仕活動、カウンセラーとの交流

ブリストルには、ロンドンからバスで到着しました。そのバス停にロータリーの方が車で迎えに来てくださり、たくさんのスーツケースや荷物を寮まで運んでくださり、また、携帯が使えるように手はずも整えてくださりました。

到着した日は、ロングフライト（乗り換え待ち時間が長かったので、日本から丸2日かかりました。）の疲れでくたくたになって床についたのですが、なんと、翌朝起きてみると、40度近い発熱。生まれてこのかた、発熱するなど数年に一回あるかないかの健康体なので、驚いて「どうすればいいでしょう」とロータリーの方達に連絡すると「薬持って行くから待ってて!」と返信が。そして、薬や食べ物などを持ってきてくださり。他の方々からも優しいお見舞いメッセージをたくさんいただきました。

その薬と、そしてなによりみなさんの優しさのおかげで、なんとか解熱して月曜日から始まるオリエンテーションの行事に参加することができました。オリエンテーションの参加が可能になったのもすべてロータリーのみなさんのおかげです。

ブリストルに来てから1週間、ブリストル生活のちょっとした質問（おすすめのお店や品物など）もすごくしやすい方々で、ロータリーのみなさんには最初から本当にいろいろとお世話になっています。この週末も、カウンセラーの方のお宅のお茶会に招待されているので出かけていきます。ロータリーの方々のおかげで、ブリストルでの生活がスムーズにそしてアットホームな空気の中でスタートできています。

これからもみなさんとの親交を深めるのが本当に楽しみです！

5. 直面した課題、問題点等

到着してすぐ体調を崩したのですが、ロータリーのみなさんのおかげですぐに良くなりました。本当に感謝です。

6. 今後の課題、目標

まずは、研究を軌道にのせたいと思います。積極的に自分から動いて軌道にのせていきます！

7. その他特記事項

繰り返しになりますが、到着してすぐにこれほどまでにロータリーのつながりにお世話になるとは夢にも思いませんでした。このご縁を大切にしていきたいと思います。

いつもご丁寧なご対応、本当にありがとうございます。



ブリストルは坂が多い街で、大学も坂（丘？）の上にあります。行き（上り）と帰り（下り）で歩く大変さが違います。



ブリストルはカラフルな可愛いお家が多いです。



大学は重厚な歴史的な建物と緑が多く、素敵なキャンパスです。